

PROGRAM

NO. 62

NFAJプログラム
2025年2月発行



NFAJコレクション 2025 春
Films from the NFAJ Collection: Spring 2025
Yokohama and Cinema

映画と横浜

2025年
3月7日[金] ▶ 3月23日[日]

* 金・土・日曜のみ

● 会期中の休館日 — 月曜日

国立映画アーカイブ | 小ホール[地下1階]

● 定員 — 151名[各回入替制・全席指定席]

● 各回の開映後の入場はできません



小ホール
上映作品NFAJ コレクション 2025 春
—横浜と映画Films from the NFAJ Collection: Spring 2025
— Yokohama and Cinema

「NFAJ コレクション」は、当館の所蔵コレクションから多彩な映画の面白さを詰め合わせてご紹介する上映企画です。今回は「横浜と映画」と題した小特集をお送りします。

江戸幕府の定めによって開港の地となった横浜は、吉澤商店によって最初期の映画興行がおこなわれ、内田吐夢や岡田時彦といった映画人たちを輩出した大正活映が現在の元町地区に本社と撮影所を構え、日本初の洋画封切館・オデオン座が伊勢佐木町に開館するなど、日本の映画産業史における要所でもあります。外国人居留地としての歴史や敗戦後の占領軍による接収を経て独自の都市文化を形成し、『港の日本娘』(1933、清水宏)、『霧笛』(1934、村田実)といった無声映画期の諸作、『赤いハンカチ』(1964、舩田利雄)、『拳銃は俺のパスポート』(1967、野村孝)といった日活アクション、TVドラマから劇場版に発展し大人気を博した「あぶない刑事」シリーズ、黄金町に実在した映画館・横浜日劇を舞台とする「私立探偵演マイク」シリーズなど、数多くの映画のロケ地としても重宝されてきました。

本特集では、大正活映の前身となった東洋フィルム製作の無声映画、敗戦後の混沌とした風景を切り取った史料価値の高い作品、横浜の知られざる裏面史を参照した作品、生活者の目線から変わりゆく横浜を見つめた作品など、10作品(9プログラム)を上映します。

映画に刻まれた横浜の光と影を、フィルム上映にてご堪能ください。



大正活映撮影所跡(現在の元町公園の一隅)に設置されている案内板

- ㊟=監督・演出 ㊟=原作・原案 ㊟=脚本・脚色
 ㊟=撮影 ㊟=美術 ㊟=音楽 ㊟=出演
 ■ スタッフ、キャスト欄の人名は、原則として公開当時の表記を記載しています。
 ■ 記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。
 ■ 不完全なプリントや状態の悪いプリントが含まれていることがあります。
 ■ ★印の回は解説等のイベントがあります。
 ■ NEWとある作品はニュープリントでの上映です。
 ■ ♪の回は伴奏付上映です。

1 3/7(金)13:00 3/22(土)14:30 ♪

成金 [SANJI GOTO — THE STORY OF A JAPANESE ENOCH ARDEN]

(34分・15fps・35mm・無声・白黒・不完全・英語インタータイトル/日本語字幕)

横浜の工業都市化を主導した浅野財閥傘下の東洋汽船は1917年に東洋フィルムを設立、中国の映画産業に寄与したベンジャミン・プロツキーを招聘して世界輸出を前提とした映画製作に乗り出す。ハリウッドで俳優として活動していたトーマス栗原が監督し、「日本のチャップリン」と呼ばれた中島岩次郎が主人公の後藤三次を演じたこの映画は、“SANJI GOTO — THE STORY OF A JAPANESE ENOCH ARDEN”と題されて米国に輸出された。ニューヨーク近代美術館から寄贈されたフィルムは前半部のみ現存。

[POINT] 東洋フィルムは山下町(現在の元町公園付近)に撮影所を構えていた。その後、大正活映に改組され、本牧に居を構えていた谷崎潤一郎を文芸顧問に招いて『アマチュア倶楽部』(1920、トーマス栗原)などを製作。内田吐夢、井上金太郎、岡田時彦ら錚々たる映画人を輩出することとなる。

1918(東洋フィルム) ㊟ハリー・ウィリアムズ、トーマス栗原 ㊟R・D・アームストロング ㊟中島岩次郎、木野五郎、鈴木美代子、鈴木千里、ナダ・リント

港の日本娘(78分・22fps・35mm・無声・白黒)

横浜随一のモダンボーイとも称された北林透馬の同名小説の映画化。外国人居留地の女学校に通う砂子(及川)とドラ(井上)は親友同士。砂子は思い焦がれていた青年ヘンリー(江川)と交際することになるが、移り気なヘンリーは耀子(沢)という女性とも深い仲に。嫉妬に駆られた砂子がとった行動は…。名匠・清水宏が港町横浜の瀟洒なムードを漂わせながら、巧みな演出手腕で描いたメロドラマ。

[POINT] 外国客船、教会、チャブ屋など開港以来の横浜を象徴する舞台立てに注目。ヘンリー役の江川宇礼雄は山下居留地の出身で、山手のインターナショナルスクールに通い、谷崎潤一郎邸に出入りしていた縁で大正活映に参加、俳優・監督として活躍した。この映画ではまさに自身を反映したかのような役柄を颯爽と演じている。

1933(松竹蒲田) ㊟清水宏 ㊟北林透馬 ㊟陶山密 ㊟佐々木太郎 ㊟金須孝 ㊟及川道子、井上雪子、江川宇礼雄、沢蘭子、逢初夢子、齋藤達雄、南條康雄

途中で約10分間の休憩時間を設けます。



成金



港の日本娘

2 3/9(日)12:00 3/16(日)15:00

密航0ライン(83分・35mm・白黒)

監督デビュー作『港の乾杯 勝利をわが手に』(1956)以来たびたび横浜を舞台とする作品を撮った鈴木清順が、麻薬の密売ルートをめぐる記者たちのスクープ合戦を描いた犯罪アクション。国際的な密輸組織「香港—東京0ライン」を追う新聞記者の香取(長門)とその友人にして競争紙の記者である仁科(小高)。やがて警察による手入れが実行されるが、背後にはスクープをものにしたい香取の暗躍があった。

[POINT] 横浜の中心部を貫く大岡川の周辺には、敗戦後、スラムや麻薬の密売トーチカ、青線などが形成された。当地が登場する映画として有名な黒澤明の『天国と地獄』(1963)はセット撮影がメインであるのに対して、この映画は実際にロケを敢行し、高度成長期の影の部分というべき混沌とした横浜の風景をフィルムに収めている。

1960(日活) ㊟鈴木清順 ㊟曽我部道太 ㊟横山保明 ㊟峰重義 ㊟千葉一彦 ㊟小杉太一郎 ㊟長門裕之、小高雄二、清水まゆみ、中原早苗、永井智雄、東恵美子、小沢昭一、木浦佑三、高品格、嵯峨善兵

3 3/7(金)16:00 3/16(日)12:00

月曜日のユカ(93分・35mm・白黒)

18歳のユカ(加賀)は修(中尾)と付き合いながら、船荷会社を営むパパ(加藤)の愛人であり、ほかに大勢の男たちと関係をもっている。あるとき、ユカはパパからお願いごとをされ…。本牧出身の安川実(ミッキー安川)が地元でまことしやかに語り継がれる女性の人生から着想した物語。『危いことなら銭になる』(1962)、『砂の上の植物群』(1964)など横浜の風景をスタイリッシュに切り取る才人・中平康のセンスが冴えわたる。

[POINT] 根岸本牧地区の米軍住宅やホテル・ニューグランドが徹頭徹尾モダンなタッチでとらえられ、加賀まりこのコケティッシュな魅力とあいまって印象を残す。その背景には、オンリー(上級軍人の専属娼婦)だった母親や隣家に住む少女の存在など、やはり横浜を舞台とする中平の『混血児リカ』(1972)同様、「国際都市」というキャッチフレーズには回収しえない混成文化のまじ・横浜の生活史が垣間見える。

1964(日活) ㊟中平康 ㊟安川実 ㊟斉藤耕一、倉本聰 ㊟山崎善弘 ㊟大鶴泰弘 ㊟黛敏郎 ㊟加賀まりこ、中尾彬、梅野泰靖、日野道夫、波多野恵、ウィリアム・バツソン、ハロルド・S・コンウェイ、加藤武、北林谷栄



密航0ライン



ひき逃げ

4 3/9(日)15:00 3/15(土)12:00

ひき逃げ(94分・35mm・白黒)

交通事故が年々増加していた当時の社会状況を反映したサスペンス。成瀬巳喜男は主人公の肉内的葛藤に焦点を当てている。夫に先立たれた国子(高峰)は幼い息子を一人で育てていたが、ある日、自動車との接触事故により息子を喪う。後日、ひき逃げ犯が自首してくるが、実際にハンドルを握っていたのは会社重役の妻・絹子(司)だった。真実を知った国子は絹子の家庭に入り込み、報復の機会をうかがう。

[POINT] おもな舞台となっているのは打越から根岸台へと向かう丘陵地に位置する山元町の一帯。市電の走る風景こそ失われたものの、印象的に登場する打越橋や商店街など現在でも撮影時の面影が見て取れる。1966(東宝)◎成瀬巳喜男◎松山善三◎西垣六郎◎中古智◎佐藤勝◎高峰秀子、司葉子、小川安三、黒沢年男、加東大介、中山仁、賀原夏子、浦辺条子、稲葉義男、加藤武、土屋嘉男、佐田豊、小沢栄太郎

5 3/8(土)14:30 3/21(金)13:00

虹をわたって(89分・35mm・カラー)

中村川に係留するだるま船にある日、家出娘のマリ(天地)がやって来た。ツギを呼び込むマリは、だるま船の住人たちの「白雪姫」となっていく。人気絶頂期にあった天地真理の初主演映画。沢田研二、萩原健一も共演するアイドル歌謡ものの体裁を借りながら、松竹喜劇の雄・前田陽一らしい「はみだし者の寄る合いのドラマ」が展開される。

[POINT] 米軍住宅が並ぶ「エリア」、富裕層が住まう丘陵の住宅街、中村川沿いのバラックや不法係留船―前田は異なる階層の居住区がひしめき合う横浜の立地に着目。山手の丘の上から下りてきた娘と文字通りの低層に生きる水上生活者たちの交流に、低層からの上昇を試みるいまひとりの主人公・日色ともゑの人生を交差させて、この「地域階層」の構図を鮮やかに浮かび上がらせた。

1972(松竹大船)◎前田陽一◎田波靖男、馬嶋満◎竹村博◎佐藤公信◎森岡賢一郎◎天地真理、有島一郎、なべおさみ、谷村昌彦、岸部シロー、大前均、立原博、武智豊子、三井弘次、日色ともゑ、萩原健一、沢田研二、財津一郎



虹をわたって

6 3/15(土)15:00★ 3/23(日)12:00

野良犬(104分・35mm・カラー)

黒澤明の名作『野良犬』(1949)を換骨奪胎した再映画化。刑事の村上(渡)はある夜、素性の知れぬ若者グループと衝突し、拳銃を盗まれてしまう。先輩の佐藤(芦田)とともに犯人らの足取りを追う村上だったが、彼の拳銃によって次々に事件が発生。やがて捜査線上に浮かんできたのは沖縄から集団就職で本土へやって来た若者たちだった。

[POINT] 森崎東をはじめとする作り手たち(脚本の一世爆は、森崎、掛札昌裕、中島信昭、梶浦政男のユニット名)は、「かつての時代が『野良犬』を産んだ如く、吾らの時代もまた『野良犬』を産める筈だ」という信念のもと、敗戦直後を時代背景とするオリジナル版に対して、沖縄の本土復帰がなされた当時の社会状況を反映。戦前からの沖縄人コミュニティが根づく横浜・川崎の京浜工業地帯を舞台に、沖縄人青年たちに注がれる本土の人間たちの「目」のイメージや沖縄の労働民謡を象徴的にもちいて「連帯と断絶」のドラマに仕立てた。タイトルバックの鶴見線、国鉄石川町駅前など往時の市内風景も見どころ。

1973(松竹大船)◎森崎東◎黒澤明、菊島隆三◎一世爆◎吉川憲一◎佐藤之俊◎佐藤勝◎渡哲也、芦田伸介、松坂慶子、志垣太郎、田中邦衛、財津一郎、中丸忠雄、緑塚子、中島真智子、堀内正美、山本麟一、赤木春恵

★3/15(土)15:00の回は上映後に当館研究員・佐野亨による解説(約20分)があります。

7 3/14(金)12:30 3/22(土)18:00

ヨコハマBJブルース

(112分・35mm・カラー)

ブルースシンガーとして横浜のライブハウスで歌いながら探偵業を請け負うBJ(松田)は、ある組織の依頼を受け、失踪した青年の行方を追いはじめるが…。松田優作がみずから原案を手がけ、当時アルバムをとくに製作したバンド、クリエイションを率いて、シンガーとしての貌と横浜への思いを刻み込んだ一作。優作たつての希望で監督を務めた工藤栄一にとっても重要な作品となり、後年の『泣きぼくろ』(1991)では優作の歌を再使用している。

[POINT] 東映セントラルフィルムは、セントラル・アーツ主義での作品をふくめ、ほかにも「プロハンター」(1981)、「あぶない刑事」(1986-87)など横浜を舞台に数多くの映画やTVドラマを製作。この作品では、山下公園や根岸森林公園、関内のジャズバー〈エアジン〉、荒井由実の歌でも知られる海の見えるレストラン〈ドルフィン〉などが仙元誠三のカメラによって情緒豊かにとらえられている。

1981(東映セントラルフィルム)◎工藤栄一◎◎松田優作◎丸山昇一◎仙元誠三◎今村力◎クリエイション◎辺見マリ、蜷江敏三、田中浩二、山田辰夫、山西道広、財津一郎、殿山泰司、馬淵晴子、宇崎竜童、内田裕也



野良犬

8 3/8(土)17:30 3/21(金)16:00

喜劇 家族同盟(87分・35mm・カラー)NEW

『虹をわたって』(1972)から10年を経て、中村川上空にかかる首都高速道路の建設工事によって古き横浜が失われていくことを憂えた前田陽一が「愛する中村川に私なりのサヨナラを言いたい」との思いから撮り上げた擬似家族劇。戦災で家族を失い、山下公園で寝起きするホームレスの老人(有島)が、寿町で生まれ育った青年(中村)や売春宿のやり手婆(ミヤコ)を集めて、ニセモノの家族を揃える。

[POINT] 横浜で生まれたフォークデュオ、ダ・カーポの歌声のせて映し出される川沿いの風景、改築前の三吉演芸場、ゲリラ的にロケされた寿町の寄せ場など、当時、中村川から元町を抜けて山手隧道の向こうに住んでいた前田の生活動線にもとづくフィードバックがみごとに結実。横浜大空襲や当時発生した横浜浮浪者襲撃事件なども参照しながら、集合→解体→再集合する家族とその外側にあるさらに巨大な解体を戯画的に描いてみせた。

1983(松竹)◎前田陽一◎中島文博◎長沼六男◎芳野野孝◎田辺信一◎中村雅俊、中原理恵、有島一郎、川谷拓三、佐藤B作、渋谷伸弘、中尾ミエ、高田純次、小松政夫、平田満、ミヤコ蝶々

9 3/14(金)16:30 3/23(日)15:00

ザ・ゴールデン・カップス ワンモアタイム(130分・35mm・カラー)NEW

本牧のライブハウス〈ゴールデンカップ〉で結成されたブルースロックバンド、ザ・ゴールデン・カップスのドキュメンタリー映画。2部構成となっており、SIDE-Aにはカップスのメンバーや1960年代当時の本牧を知る人々の証言、SIDE-Bには解散から31年ぶりに開催されたバンドの復活ライブの様相が収められている。

[POINT] 有名無名を問わず次々に登場する証言者たちの語りを通じて、バンドの変遷のみならず、敗戦後の接収と不良文化のなかではぐくまれた横浜の地域風俗史がヴィヴィッドに浮かび上がってくる。アルタミラピクチャーズ代表の榎井省志は映画のプロデューサーにとどまらず、バンドの再始動にも深くかわかり、この作品の公開にあわせてカップスは再び大きな注目を浴びることとなった。

2004(アルタミラピクチャーズ)◎サン・マー・メン製作 榎井省志◎長田勇市◎ミッキー吉野◎ディヴ平尾、ケネス伊東、エディ藩、ルイズレイス加部、マモル・マヌー、林恵文、アイ高野、柳ジョージ、ジョン山崎、忌野清志郎、内田裕也、北野武、スティーブ・フォックス、CHAR、土屋昌巳、矢野顕子、李世福、CHIBO、陳信輝、横山剣、かまやつひろし、鈴木ヒロミツ、萩原健一



喜劇 家族同盟

NFAJ コレクション 2025 春—横浜と映画

Films from the NFAJ Collection: Spring 2025—Yokohama and Cinema

3月	7 日	13:00	① 成金／港の日本娘 *途中休憩あり (計112分)	16:00	③ 月曜日のユカ (93分)
	8 日	14:30	⑤ 虹をわたって (89分)	17:30	⑧ 喜劇 家族同盟 (87分)
	9 日	12:00	② 密航0ライン (83分)	15:00	④ ひき逃げ (94分)
	14 日	12:30	⑦ ヨコハマBJブルース (112分)	16:30	⑨ ザ・ゴールデン・カップス ワンモアタイム (130分)
	15 日	12:00	④ ひき逃げ (94分)	15:00	⑥ 野良犬 ★ (104分)
	16 日	12:00	③ 月曜日のユカ (93分)	15:00	② 密航0ライン (83分)
	21 日	13:00	⑤ 虹をわたって (89分)	16:00	⑧ 喜劇 家族同盟 (87分)
	22 日	14:30	① 成金／港の日本娘 ♪ *途中休憩あり (計112分)	18:00	⑦ ヨコハマBJブルース (112分)
	23 日	12:00	⑥ 野良犬 (104分)	15:00	⑨ ザ・ゴールデン・カップス ワンモアタイム (130分)

■ ★印の回は上映後に作品解説があります。 ■ ♪印の回は伴奏付上映です。

■ 各日11:00に開館します。

展示室(7階)

【企画展】 常設展「NFAJコレクションでみる 日本映画の歴史」も併設されています。

映画監督 アンジェイ・ワイダ

Film Director Andrzej Wajda

2024年12月10日(火)―2025年3月23日(日)

* 月曜日は休室

主催: 国立映画アーカイブ

共催: 日本美術技術博物館Manggha、

アダム・ミツケウィチ・インスティテュート

協力: クラクフ国立美術館、ポーランド広報文化センター

『灰とダイヤモンド』などでポーランドから世界映画に新風を起し、『大理石の男』や『鉄の男』では政治体制にも抗いつつ壮大な物語世界を築いた監督アンジェイ・ワイダ。2019年に本国で開催した展示内容に加え、日本との深いつながりを示す独自の章を加えてその作家像をたどります。

常設展ギャラリートーク

原則として毎月第一土曜日

* 詳細はホームページをご覧ください。

開室時間=11:00―18:30(入室は18:00まで)
料金(常設展・関連企画共通)=一般250円(200円)／大学生130円(60円)／65歳以上、高校生以下および18歳未満、障害者手帳をお持ちの方(付添者は原則1名まで)、国立美術館のキャンパスメンバーズは無料

* ()内は20名以上の団体料金です。

* 学生、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方、キャンパスメンバーズは入室の際、証明できるものをご提示ください。

* 当館が主催する上映会の観覧券(オンラインチケット「購入確認メール」またはQRコードのプリントアウト)をご提示いただくと、1回に限り団体料金が適用されます。

* 詳細は当該チラシまたは国立映画アーカイブのホームページをご覧ください。

伴奏付上映出演者

うさぴーん／作曲、ピアノ

日本大学芸術学部音楽学科卒業。舞台劇・ミュージカルへの楽曲提供・伴奏、歌唱指導、バンド活動、音楽イベントのプロデュースなどのほか、音楽・映画関連の文筆活動もおこなう。



fiaf

国立映画アーカイブは、国際フィルムアーカイブ連盟(FIAF)の正会員です。FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。

チケット購入方法

	一般	高校・大学生・65歳以上	小・中学生	障害者手帳をお持ちの方(付添者1名まで)	キャンパスメンバーズ(教職員)	キャンパスメンバーズ(学生)
通常料金	520円	310円	100円	無料		
特別料金(1回の回)	1,050円	840円	600円	無料	500円	400円
オンライン販売	各上映日の3日前正午から各上映回の開映15分前まで					
窓口販売	各上映回の開映1時間前から5分前まで若干数販売					

* 電子チケットは、当館HPより公式チケットサイトににてオンライン販売します。

* 料金区分の違うチケットでは入場できません。差額のお支払で観覧することはできません。

* 学生、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方、国立美術館のキャンパスメンバーズは証明できるものをご提示ください。ご提示のない方は入場できません。

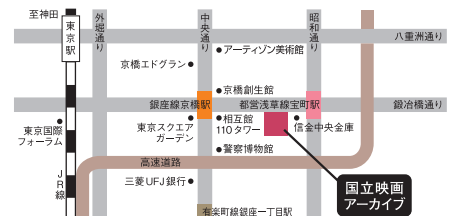
* 未就学児、優待の方は「障害者手帳をお持ちの方または付添者等券」をお求めください。

入場方法

* 開場は開映30分前です。

* チケットのQRコードをスマホ画面、または印刷紙面でご提示ください。特集名、作品名はチケットに表示されませんので、お間違いないようご注意ください。

* 各回の開映後の入場はできません。予告篇はございません。



国立映画アーカイブ 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:

東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分

都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分

東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分

JR東京駅八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: ハローダイヤル 050-5541-8600

ホームページ: www.nfaj.go.jp



長瀬映像文化財団

国立映画アーカイブは長瀬映像文化財団の支援を受けています。

上映回番号 482

表紙: 月曜日のユカ